



家族との様々なコミュニケーションの中で、 「食卓」が半分以上を占めると感じている主婦が約7割

家族との様々なコミュニケーションの中で「食卓」が占める割合は、「5～6割程度」が36%で最も多く、次いで「7～8割程度」が27.3%、「3～4割程度」が19.7%である。「9割以上」「7～8割程度」「5～6割程度」を合算すると69.9%。(グラフ 1左)

家族全員揃う夕食頻度が低い子供が大きいステージで、 「食卓」は家族のコミュニケーションにとってより重要性を増している

ライフステージ別でみると、「食卓」が家族とのコミュニケーションの中で7割以上を占めると感じている割合(「9割以上」+「7～8割程度」)は、中学生～学校卒業以上の子供がいるステージで4割前後と他のステージよりもやや高い。

また、「9割以上」と、「食卓」を最重要視している割合も、大学生以上の学生～学校卒業以上で1割以上と他のステージよりも高い。中学生～学校卒業以上の子供がいるステージでは、食卓で家族全員が揃う頻度が他のステージよりも少ないが、「食卓」の位置づけはより高いものと考えられている。(グラフ 1右)

(「食卓コミュニケーションの内容については、「食卓コミュニケーションのギャップ<理想・現在・昔>」のレポートを参照)

食卓以外での家族とのコミュニケーションは 「基本の挨拶」「リビングで空間を共有」「休日のレジャー」

食卓以外での家族とのコミュニケーションを複数回答で聞いた結果、「『おはよう』～などの基本の挨拶をかわす」が70.1%で最も多く、次いで「リビングで空間を共有する」「休日などにレジャーに出かける」が6割以上で続く。また、「外食」も48.8%と5位で、自宅での食事だけでなく、「外食」も家族コミュニケーションに一役かっている。(グラフ 2)

子供が小さいときは「基本の挨拶」や「お風呂」、 小学生では「勉強」や「ゲーム」、中学生～大学生以上の学生では 「テレビと一緒に見る」など、各ステージでコミュニケーション内容は様々

ライフステージ別でみると、「『おはよう』～などの基本の挨拶をかわす」は、小学生未満～中学生の子供がいるステージでは7割以上と高く、「リビングで空間を共有」もこれらのステージで7割前後と高い。「休日などのレジャー」は子供なしや小学生以下の子供がいるステージで割合が高い。

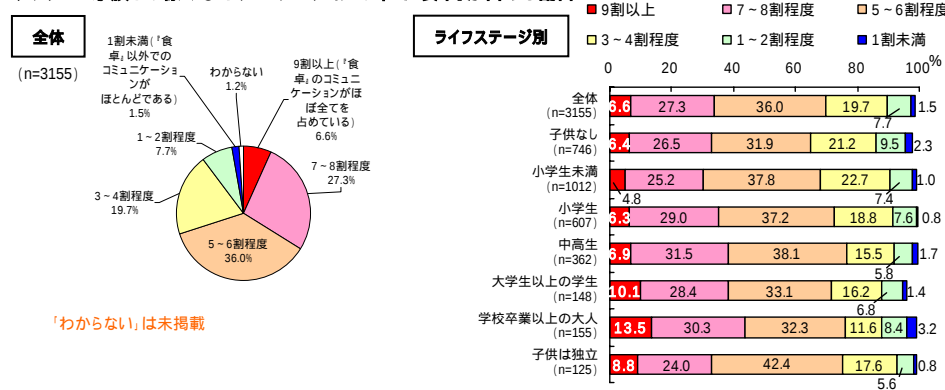
小学生以下の子供がいるステージではこの他にもお風呂や寝かしつけ、小学生の子供では送迎中の会話、一緒に勉強、ゲームをするなど、コミュニケーション内容は多岐にわたっており、「食卓」以外にもコミュニケーションをとれる機会が多いようだ。

中学生以上の子供がいるステージでは「テレビ/DVDを見る」「メールをする」では割合がやや高いものの、全体よりも5%以上低い項目が目立ち、「食卓」の重要性が増していることと関連が深そうである。

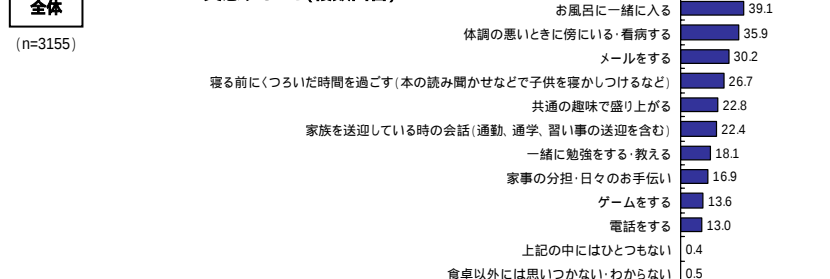
<回答者プロフィール>

●年代:20代以下 9.0%、30代 45.6%、40代 31.5%、50代 10.8%、60代以上3.1%、平均年齢39.8歳。●就業形態:専業主婦 64.8%、パート・アルバイト19.6%、フルタイム11.1%、その他(自営・在宅など含む)4.5%。

グラフ 家族との様々なコミュニケーションの中で「食卓」が占める割合



グラフ 普段の生活の中で、自宅の食卓以外で 家族とコミュニケーションがとれていると 実感すること(複数回答)



リビング新聞ネットワーク 女性のための生活情報紙「リビング新聞」は、仙台から鹿児島までの60エリアで910万部発行され、エリアごと地域に密着した情報収集と発信を行っています。2006年度～2007年度は「わが家ごはん・地元ごはん・ニッポンのごはん」キャンペーンを全国で実施。地産地消、食育などについてのデータは下記サイトでもご覧いただけます。

ウェブサイト <http://wagaya-gohan.jp/>

リビングくらしHOW研究所 女性の意識と行動を分析・研究する、リビング新聞グループのマーケティングカンパニーです。あらゆる消費の中心に存在する女性生活者と、より深く、効果的なコミュニケーションを実現するための情報を発信しています。

ウェブサイト <http://www.kurashihow.co.jp>

問い合わせ TEL03-5216-9420 FAX03-5216-9430